

文章検

文章読解・作成能力検定

佐竹先生 × 佐渡島先生

「文章読解・作成能力検定(文章検)」スタート 特別対談

特集

書いて

伸ばそう「思考力」

「書く」ことは「考える」こと



佐渡島 昔はせいぜい授業参観で発表されるくらいだった文章が、今ではインターネットの普及により、簡単に全世界の人たちに見られるようになりました。書くことに伴う責任も大きくなっているように思います。

佐竹 書き言葉の話し言葉化も加速しています。情報や論理が不十分で、感覚的にしか伝わらないような文章を安易に発信してしまうため、相手に誤解を与えることもあります。どうしても自分の伝えるべきことを相手に伝えられるか。書きっぱなしでなく、自分の言葉を確認しながら発信することの大切さを子どもたちに教えるのは大人の責任ではないでしょうか。

佐渡島 哲学では、言葉は思考の道具であり、言葉が使いこなせる範囲でしか思考できないという考えがありますが、その通りだと思います。書くことで言葉の使い方を鍛えることが思考力を高めることにつながるわけです。

佐竹 書く能力を高めることは、問題解決能力を高めることと同じことなんです。文章を書くときには、情報を集めて分析し、自分が置かれている状況や書く際の条件を考えて内容を構築し、相手を納得させられるような表現で作り上げる。これには、読解力、情報収集力、構築力、表現力など、あらゆる力が必要となります。

SATAKE HIDEO

佐竹 秀雄 教授

武庫川女子大学 言語文化研究所長

1974年、大阪大学大学院文学研究科修士課程修了。国立国語研究所 言語計量部室長を経て、現職。専門は現代語の表記論、文章論、言語行動論。日本広報協会広報アドバイザー、日本話話ことば協会理事のほか、日本漢字能力検定協会が実施する「文章読解・作成能力検定(文章検)」の監修を務める。【日本語を知る・磨く 文章を書く技術】(ハレ出版)、【デイリコンサイズ国語辞典】(三省堂)ほか著書、編著書多数。



佐竹 一般的に、文章を「書く」ことは、「話す」ことよりも難しく捉えられがちですね。

佐渡島 書いたものがあると、用いた言葉を、適切だったか確認したり別の表現に変更したりすることができる。言葉

「書く」コミュニケーションが重要になってきている

検討するには、「書く」ことはとても有効だと思います。

佐竹 話すことは即興性のコミュニケーション。対して書くことはじっくりと時間をかけて作り上げることができるので、即座に話を返すのが苦手な人でもできるコミュニケーションの形です。書くことを訓練すれば、話すことが苦手な人もうまく話せるようになる可能性があります。

佐竹 一般的に、文章を「書く」ことは、「話す」ことよりも難しく捉えられがちですね。

佐渡島 書いたものがあると、用いた言葉を、適切だったか確認したり別の表現に変更したりすることができる。言葉

文章って難しい!どうしたら書けるようになるの?と思っている人もいるのでは? 国語辞典の編纂などを手掛け、「文章検」の監修者でもある、武庫川女子大学 佐竹教授とアジア初の本格的なライティング・センターを創設した、早稲田大学 佐渡島教授、文章指導の専門家お二人に、「書く力」の大切さとその磨き方についてお聞きしました。

SADOSHIMA SAORI

佐渡島 紗織 教授

早稲田大学 国際コミュニケーション研究科 留学センター 教授

1998年、イリノイ大学でPh.D.を取得。専門は国語教育。特に文章作成指導と評価に関する研究を行う。2002年より早稲田大学にて教鞭をとる。著書に「これから研究を書くひとのためのガイドブック」(ひつじ書房、吉野亜矢子 共著)、『文章チュートリングの理念と実践』(ひつじ書房、太田裕子 共著)ほか多数。現在は、早稲田大学アカデミック・ライティング・プログラム責任者として、初年次文章作成指導、ライティング・センター ディレクターを務めている。



文章を書くことは、思いやりのある人、魅力ある人になる手段でもあります。

読み手のことを考える大切さ、書くことで鍛えられる思考力は「生きる力」に

佐竹 実は、私は小学生の頃、作文が大の苦手でした。何も伝えたいものがないのに、書かされるのが苦痛でした。
佐渡島 私もです(笑)。「運動会での楽しかったこと」を書きなさい」と言われても、先生も児童もみんな同じ時空を共有しているの、書く必要がないんですよ。これが「風邪でお休みした友人のために、運動会であった出来事を伝えよ

佐渡島 書くことにより考え、自分の考えをさらに深めたり、修正したり、新しい何かを発見したり、視野を広げたりすることもできますよね。
佐竹 小学校の教科書では「主人公の気持ち」を考えよう」「このテーマについて考えなさい」などという課題が多い。でも、誰もどうやって考えるかを教えられたことはないと思います。では、考えるとは何か。私がたどり着いた答えは「さまざまな情報をうまく結び付けていくこと」なんです。書くことによって、それまで全く別物と思われていたものを結び付

書くことを通じて自分の意見を構築し積極的に発言する若者を増やしたい。



けて、新しい何かを生み出すことができる。書くことそのものが考えること、というわけです。だから、書くことで思考力が高められるんですね。
佐渡島 日本では昔から学校の授業で「思い出に残ったことや書きたいと思ったことを書きなさい」という、生活を題材にした作文が課題にされてきました。情緒的な育成も大切だとは思いますがビジネス界からは「日本人はもっと機能的な文章にも強くなりたい」と指摘されていますよね。
佐竹 そもそも文章とは何かというこ

う」という課題なら、書く必然性が生まれる。課題を与える側には、書きたい、伝えたいという欲求を起させる設定の工夫が必要だと思います。
佐竹 文章とは、誰かに伝えるために書くものですからね。現代の文章には、いつでもこう書けばいいという便利な方法があるわけはありません。だからどんな相手や何のために書くのか、といったさまざまな状況設定で文章を書く練習をする必要があります。
佐渡島 上手に書けるようになるためには、相手や目的という状況を考えるこ

書籍のご紹介

日本語を知る・磨く文章を書く技術

佐竹 秀雄 著
【ペレ出版】

自分が読み手に伝えたいこと、伝えるべき内容を明確にする方法と、その内容を読み手に、より正しく確実に伝える方法を具体的に手順化して説明。手順にそって行えば、誰でも読み手に伝えたいことをうまく伝えられる文章を作り上げることができる。



書くことに関する考え方の共通点が多いお二人。初対面とは思えない和やかな雰囲気の中、話ははずみました。

文章読解・作成能力検定(文章検)の詳細については次のページをご覧ください。

書籍のご紹介

これから研究を書くひとのためのガイドブック

佐渡島 紗織・吉野 亜矢子 著
【ひつじ書房】

ライティングが専門でない教員へ向けた指導テキスト。学生の自習用としても充実。主に人文社会科学系の領域向き。「思考を整理して、わかりやすく、科学的に」伝える技能を学ぶ文章編、文献・実証研究のテーマ設定から論文評価までを解説する論文編。



早稲田大学ライティング・センター

専門的な訓練を受けた大学院生が、1対1で文章作成指導を行う支援機関。語学授業の課題文章、プレゼンテーション原稿、レポート、卒業論文、修士論文、博士論文、投稿論文などを扱う。1セッション45分間で、対話をしながら文章と一緒に修正。添削を行わず、書き手が自立できるように指導している。



とを教えられていない人も多いですね。文章とはただ文がずらずらと並んでいるのではなく、意味のあるブロック(段落)で構成されている。まずは、その基本を知ることが大切です。
佐渡島 早稲田大学ライティング・センターでは、文章の添削はしません。添削者の力が上がるだけですからね。どんな指導をするかという、例えば、長い文章をだらだらと書いているうちに途中で主語が変わってしまっていることがよくあります。単に文を分けるよう指導するのはなく、私たちはこの文章の

とが大切なんです。ね。
佐竹 私たちは生きる上で、さまざまな問題と直面し、その状況に応じて今、何をすべきか考えて行動しています。文章を書くことがもたらす効果の最たるものは、いろいろな状況を疑似的にトレーニングできること。これにより、将来、事が起きたときにはより柔軟に対処することが可能になります。書くことで高められる思考力は、その先の「生きる力」にもつながるといわれています。
佐渡島 海外からの学生には、社会や国に対して自分の意見を表出すること

主語は何かなぜ途中で入れ替わったのか、本来はどちらを主に述べたかったのかを一緒に考えます。そうすることで書き手は文章を書いた時の思考の整理ができ、認識を深めていくのです。本来書くことは、こうした作業も含めた活動なのだと思います。
佐竹 佐渡島先生の指導の仕方は、まさに「思考力」を養っていると思います。文章は、書くより、作る、という表現が適切かもしれません。「ただ文字化していくこと」を書くというなら、思考力にはつながりませんよね。

への貪欲さを感じています。日本の学生にも、書くことを通じて自分の意見を構築してもらいたい。日本人としての誇りを持つて意見を発信する若者をもっと増やしたいですね。
佐竹 「書く」ことの究極の目的は、伝えたいことをしっかり伝え、それによって誰かを動かすことではないでしょうか。わかりやすい言葉で相手に理解してもらい、伝えることは、日常的な思いやりでもあります。文章を書くことは、思いやりのある人、魅力ある人になる手段ともいえるでしょう。そういう意味で、文章を書く勉強は子どもだけでなく、大人にもしてほしいですね。